

平成26年度全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査の結果について（概要）

1 全国学力・学習状況調査

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施期日 実施期日：平成26年4月22日（火）

(3) 調査方式 悉皆方式による調査

(4) 調査実施学校数(公立学校)等

学年	区分	調査実施校数(校)			調査実施者数(人)		
		国	広島県	広島市	国	広島県	広島市
小学校第6学年		20,395	489	140	1,080,663	24,538	10,700
中学校第3学年		10,248	241	64	1,018,365	22,051	8,997

(広島県・広島市は、国・広島県の内数である。)

(5) 調査内容

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 対象教科 小学校第6学年：国語・算数 中学校第3学年：国語・数学

(イ) 出題範囲 調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

(ウ) 出題内容 A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

イ 質問紙調査

(ア) 対象 小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(イ) 内容 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項

② 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(6) 本市と広島県・全国の各教科の平均正答率

【小学校】

(単位：%)

教科	国語						算数					
	A問題			B問題			A問題			B問題		
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
平成19年度	81.7	83.3	<b>82.8</b>	62.0	65.0	<b>65.0</b>	82.1	84.7	<b>84.2</b>	63.6	65.0	<b>65.7</b>
平成20年度	65.4	67.8	<b>67.3</b>	50.5	53.3	<b>52.8</b>	72.2	74.3	<b>73.9</b>	51.6	53.6	<b>54.3</b>
平成21年度	69.9	72.9	<b>71.9</b>	50.5	53.8	<b>53.2</b>	78.7	81.3	<b>80.7</b>	54.8	56.6	<b>57.1</b>
平成25年度	62.7	65.8	<b>63.8</b>	49.4	52.7	<b>51.7</b>	77.2	79.2	<b>77.9</b>	58.4	61.3	<b>59.7</b>
平成26年度	72.9	75.9	<b>76.4</b>	55.5	58.3	<b>57.0</b>	78.1	80.7	<b>79.2</b>	58.2	60.1	<b>60.4</b>

【中学校】

(単位：%)

教科	国語						数学					
	A問題			B問題			A問題			B問題		
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
平成19年度	81.6	82.4	<b>81.9</b>	72.0	72.0	<b>72.0</b>	71.9	73.3	<b>73.6</b>	60.6	60.6	<b>60.6</b>
平成20年度	73.6	74.1	<b>73.9</b>	60.8	60.9	<b>60.2</b>	63.1	64.1	<b>63.8</b>	49.2	48.7	<b>47.7</b>
平成21年度	77.0	77.6	<b>76.6</b>	74.5	74.8	<b>73.7</b>	62.7	62.9	<b>62.3</b>	56.9	56.2	<b>55.1</b>
平成25年度	76.4	76.7	<b>75.6</b>	67.4	69.2	<b>68.0</b>	63.7	64.8	<b>63.7</b>	41.5	43.5	<b>41.7</b>
平成26年度	79.4	80.1	<b>79.0</b>	51.0	50.9	<b>49.8</b>	67.4	68.4	<b>66.9</b>	59.8	60.5	<b>59.7</b>

2 「基礎・基本」定着状況調査

(1) 調査の目的

- ① 学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の定着状況とともに、思考力、表現力などの状況を把握する。
- ② 児童生徒の生活や学習に関する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握する。
- ③ 各学校が全県的な結果と比較・分析することを通して、自校の課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。
- ④ 調査結果を基に児童生徒の学習の到着度を明らかにし、県の教育行政施策に生かす。

(2) 実施期日 平成26年6月10日(火)

(3) 調査対象学校数等

※( )は、広島県における広島市の割合

区分 学年	調査実施校数		調査実施者数	
	県	広島市	県	広島市
小学校第5学年	494校	142校(28.7%)	24,412人	10,511人(43.1%)
中学校第2学年	241校	64校(26.6%)	21,947人	8,919人(40.6%)

(4) 調査内容(実施教科等)

- 小学校第5学年 ① 国語、算数、理科における前学年までの学習内容の定着状況調査  
 ② 生活と学習に関する意識・実態についての児童質問紙調査  
 ③ 指導方法等についての学校質問紙調査
- 中学校第2学年 ① 国語、数学、理科、英語における前学年までの学習内容の定着状況調査  
 ② 生活と学習に関する意識・実態についての生徒質問紙調査  
 ③ 指導方法等についての学校質問紙調査

(5) 調査問題の類型

- タイプIの問題  
教科で身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼすなどの基礎的・基本的な内容
- タイプIIの問題  
教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに係る内容

(6) 本市と広島県の各教科の平均通過率

【小学校】

教科 類型	国語						算数					
	タイプI		タイプII		教科全体		タイプI		タイプII		教科全体	
	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市
平成22年度	82.3	81.0	/				79.0	77.6	/			
平成23年度	78.5	77.3					77.8	76.2				
平成24年度	75.8	74.1					75.0	72.9				
平成25年度	77.2	73.2	38.2	33.8	70.1	66.0	70.1	66.7	68.1	66.4	69.8	66.7
平成26年度	73.9	70.5	62.2	59.5	71.8	68.5	79.7	75.5	69.8	68.4	78.0	74.2

  

教科 類型	理科					
	タイプI		タイプII		教科全体	
	県	市	県	市	県	市
平成25年度	63.9	60.2	56.8	53.8	61.3	57.9
平成26年度	73.9	71.5	63.5	61.4	70.6	68.3

【中学校】

教科 類型	国語						数学					
	タイプI		タイプII		教科全体		タイプI		タイプII		教科全体	
	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市
平成22年度	77.5	74.9	/				72.6	71.0	/			
平成23年度	73.2	70.2					74.7	72.4				
平成24年度	81.0	78.5					74.1	71.9				
平成25年度	73.7	70.6	63.7	61.9	71.7	68.8	72.7	68.8	51.2	47.8	69.0	65.1
平成26年度	73.8	70.6	73.5	70.4	73.7	70.6	73.9	70.8	52.7	48.8	70.2	67.0

  

教科 類型	理科						英語					
	タイプI		タイプII		教科全体		タイプI		タイプII		教科全体	
	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市	県	市
平成22年度	/						70.2	66.3	/			
平成23年度							71.9	69.9				
平成24年度							74.2	72.2				
平成25年度	45.8	42.4	26.1	23.8	39.9	36.8	74.4	70.1	63.2	59.0	72.1	67.8
平成26年度	59.8	56.6	47.9	45.0	55.0	51.9	72.5	67.4	51.8	46.8	68.2	63.1

(7) 本市の通過率ごとの児童生徒の割合

校種	教科	小学校			中学校			
		国語	算数	理科	国語	数学	理科	英語
通過率80%以上の割合(%)	H22	67.3	58.6		48.0	43.6		36.3
	H23	57.5	55.0		34.4	47.1		43.8
	H24	49.4	47.8		57.5	46.0		48.2
	H25	43.7	26.1	16.7	41.2	37.3	3.9	42.8
	H26	34.8	46.4	45.4	40.5	40.5	16.2	35.8
通過率60%以上の割合(%)	H22	87.9	85.0		79.9	70.3		65.6
	H23	84.2	84.7		74.3	73.6		71.1
	H24	79.5	79.3		87.0	73.1		74.4
	H25	78.4	65.8	51.3	74.4	68.3	21.3	69.8
	H26	76.3	79.2	79.9	73.0	71.0	41.7	66.0
通過率30%未満の割合(%)	H22	2.2	2.2		2.1	7.4		6.4
	H23	2.5	2.3		3.1	6.6		5.1
	H24	3.8	3.4		1.7	7.0		4.7
	H25	3.7	4.6	10.8	3.3	8.0	36.2	6.1
	H26	4.0	2.7	3.5	2.9	6.2	11.7	5.6

※ H25・H26は、タイプIの割合

3 全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査に見られる成果と課題

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

国語、算数・数学、小学校理科、英語については、両調査において平均正答率（平均通過率）が60%を超えていることから、基礎的・基本的な学習内容は概ね定着していると考えられる。

中学校理科については、「基礎・基本」定着状況調査において、昨年度と比べ平均通過率は上昇しているものの、60%を下回っていることや、通過率30%未満の児童生徒の割合が、11.7%であることから、依然として基礎的・基本的な学習内容の定着に課題があると考えられる。

【具体的な課題例】

(理科)

観察・実験の方法の理解や、物質の特定方法についての理解などに課題がある。

(2) 学んだ知識や技能を活用し、思考・判断・表現する力

全国学力・学習状況調査において、小学校のB問題の平均正答率が国の平均正答率を上回るなど、一定の成果が見られるが、基礎的・基本的な学習内容の定着と比較すると、十分とは言えない状況にある。

【具体的な課題例】

(国語)

複数の文章を読み比べて要旨を捉えることや、必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを条件に合わせて記述することに課題がある。

(算数・数学)

数学用語の意味を具体的な事象に即して解釈することや、数値や情報を読み取り、自分の考えや問題を解決する方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(理科)

基礎的な知識を実生活に適用して思考することや、観察・実験結果を分析・解釈し、事象が起こる要因を見いだすことに課題がある。

(英語)

文章を読んで必要な情報を取り出し、その情報に関連する英文を書くことや、根拠をもって考えを伝える英文を書くことに課題がある。